

市民との意見交換会

分野別意見交換会開催テーマ：若者が地元に着定できる夢と希望のあるまちづくり
分野別意見交換会担当主体：広報広聴委員会
相手方：勤労青少年ホーム連絡会
開催日時：令和8年7月10日（金）午後7時～午後8時30分
開催場所：会津若松市役所 議場
出席者：別紙のとおり（ほか 傍聴議員3名、報道関係2名）
1. 開催の趣旨 この意見交換会は、令和8年度に勤労青少年ホームの指定管理制度が終了することに伴い、（一財）会津若松市勤労福祉サービスセンターがこれまで行ってきた勤労青少年ホーム事業について登録者が感じている不安や、若者が抱く街づくりへの思い、若者政策に対する意見を共有することを目的に開催した。 2. テーマに基づく意見交換の要旨 テーマ：若者が地元に着定できる夢と希望のあるまちづくり (1) 今後も継続したい、勤労青少年ホーム事業について 令和8年度で現行の指定管理が終了することに伴う、勤労青少年ホーム事業の今後の運営方針や、若者に対する市の施策について、参加者から多くの不安と要望が出された。 中でも、事務局主導の「講座」は時代の変化とともに参加者数は減少傾向にある一方、5人以上の有志で自発的に結成される「クラブ活動」は、多世代・多職種の交流を生む貴重な場となっており、この「クラブの垣根を超えたつながりの機能」を継続すべきとの意見が挙げられた。勤労青少年ホームは単なる施設ではなく、特に市外からの移住者（転入者）にとっても地域に馴染むための大切な「居場所」となっており、運営手法が変わったとしても、若者が安心して交流できる「居場所」が確実に確保されることを望む切実な声が寄せられた。 また、市から提案があった「若者会議（仮称）」に関しても、事務局という専門の支えがない中で、誰がこれまでのように相談役となり方向性を示してくれるのかが不透明であるという指摘があった。仕事と両立しながら若者だけで組織を維持・運営することには限界があり、事務局のような「受け皿」となる相談・支援体制が不可欠であるといった意見があった。 さらに、具体的な活動環境に関しても、現在利用している防音設備が整った施設の確保や、週1回程度の活動頻度が今後も維持されるよう求める声があった。 (2) 若い方の視点でどんな会津若松市にしたいか 若者が会津若松市に求めるものとして、以下のような意見が出された。 ○ 鶴ヶ城などの歴史的資源を活用した全国から人を呼び込める音楽フェスの定期

開催

- 映画館の設置
- 新幹線の延伸
- 若者が市外に流出しないよう、会津大学の強みを活かすなどした、大手企業の誘致（就職先の確保）
- 会津若松インター付近（アピオ周辺）のにぎわいの不足を課題とし、観光客を市街地へ誘導し、活力あるまちにするための開発の必要性
- SNS等での会津若松市の魅力発信の強化

3. 総括および今後議会が取り組むべき方向

今回の意見交換会では、勤労青少年ホームの今後の在り方や、若者の視点による街づくりについて、多角的な視点から課題や意見が挙げられた。特に、令和9年度以降の運営形態の変更に伴い、活動場所の確保やサポート体制の先行きが不透明であることに對し、勤労青少年ホームの利用者から切実な不安が寄せられた。勤労青少年ホームが単なる施設ではなく、地元で働く若者や移住者にとって、人との繋がりを感じられる重要な「居場所」であるという事実は、議会としても重く受け止めなければならない。若者が一人の市民として尊重されていると実感しながら住み続けられるよう、議会として以下の方向性で取り組んでいく。

①若者の声を施策に反映させる審査に向け

今回の意見交換会を通じて、若者が抱える現状の不安や、まちづくりに対する率直な意見を直接聴取することができた。今後は、広報広聴委員会においてこれらの貴重な意見を整理し、各分科会へと共有していく。

青年期の支援をはじめとする若者施策は、特定の分科会の所管に留まらない横断的な課題であることから、各分科会において継続的な調査・研究と市政への反映に向けた働きかけを行い、若者の視点や声を関連する予算や事業の審査等に反映させていくよう努める必要がある。

特に勤労青少年ホームの運営形態の移行期において、利用者がこれまでに築いてきた成果やつながりが損なわれることのないよう、第8次総合計画の策定や令和9年度当初予算審査等を通じて市長部局へ政策提言を行うとともに、議会として市の取組を注視していく。併せて、市や関係機関には、若者の声に寄り添い、今後の方向性について不安を払拭するためのより丁寧な説明と情報共有を図るよう求めていく。

②若者の自主的な活動を支える環境づくりとサポートの充実

若者が自ら考え、企画し、仲間を増やしていく過程こそが、次世代の文化を育む力となる。一方で、すべてを若者任せにするのではなく、活動をサポートしていく新たな体制づくりが不可欠である。若者が失敗を恐れず挑戦できる環境が構築されるよう、市に対してソフト面のサポート体制の充実を求めるとともに、今後提案される関

連予算や事業計画が若者のニーズに合致したものとなっているか、議会として審査・確認していく。

③若者が望む会津若松市の実現に向け

若者から提案された前向きな街づくりへのアイデアを大切にし、議会としてできることに関わっていく。若者が「会津に帰りたい」「会津に住み続けたい」と思える会津若松市のため、議会としても若者との継続的な対話の場を設けて調査・研究を重ね、議会として提言やチェック機能を果たしていく。

会津若松市議会議長 様

令和8年8月25日

広報広聴委員会 委員長 柁屋 奈津子

分野別意見交換会出席者

●勤労青少年ホーム連絡会及び事務局（敬称略）

17 名

座席番号	氏 名	座席番号	氏 名
1	あくたがわ 芥川 こう た 航大	11	すずき 鈴木 こずえ 梢
2	に へい 二瓶 こういち 光一	12	わたなべ 渡部 りょう 亮
3 (挨拶者)	にいつま 新妻 よしの 佳乃	13	あまい 天井 ゆ き 由紀
4	わたなべ 渡部 まさ き 真希	14	けいとく 慶徳 しょう た 翔太
5	あきもと 秋元 まり 真理		
6	さとう 佐藤 なおとし 直利		
7	おおほり 大堀 しげまさ 茂政		
8	おおたけ 大竹 ひろゆき 博之	事務局	なかじま 中島 よしみち 好路
9	はやかわ 早川 のぶ よ 信世	事務局	いわた 岩田 さとし 聡
10	すずき 鈴木 しんたろう 慎太郎	事務局	さいとう 齊藤 だいじろう 大二郎

●会津若松市議会 広報広聴委員会

役 職	氏 名
議 長	きよかわ 清川 まさのり 雅史
委 員 長	まさや 桎屋 な つ こ 奈津子
副委員長	まつぎ 松崎 しん 新
委 員	はらだ 原田 としひろ 俊広
委 員	はせ がわ 長谷川 じゅんいち 純一
委 員	おおしま 大島 とも こ 智子
委 員	ささうち 笹内 なおゆき 直幸
委 員	ひらた 平田 く み 久美

●傍聴議員

役 職	氏 名
議 員	おおたけ 大竹 とし や 俊哉
議 員	なごう 長郷 じゅんいちろう 潤一郎
議 員	よしだ 吉田 けいぞう 恵三